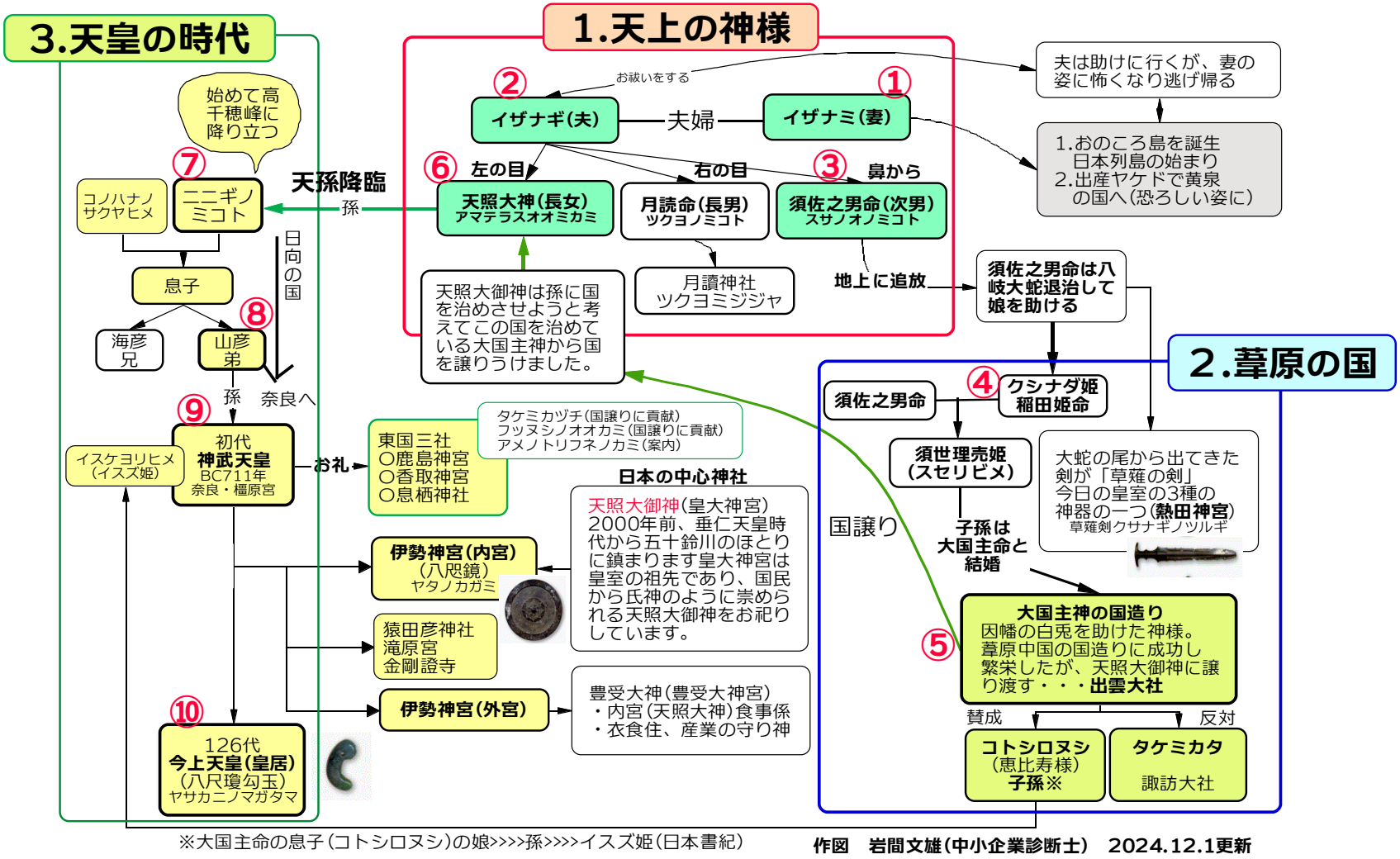
日本神話の始まりから今上天皇まで

3つの時代　1.天上の神様　2.葦原の国　3.天皇の時代



※大国主命の息子(コトシロヌシ)の娘>>>>孫>>>>イスズ姫(日本書紀)

作図　岩間文雄(中小企業診断士)　2024.12.1更新

岩間　文雄(中小企業診断士)
090-2637-1164

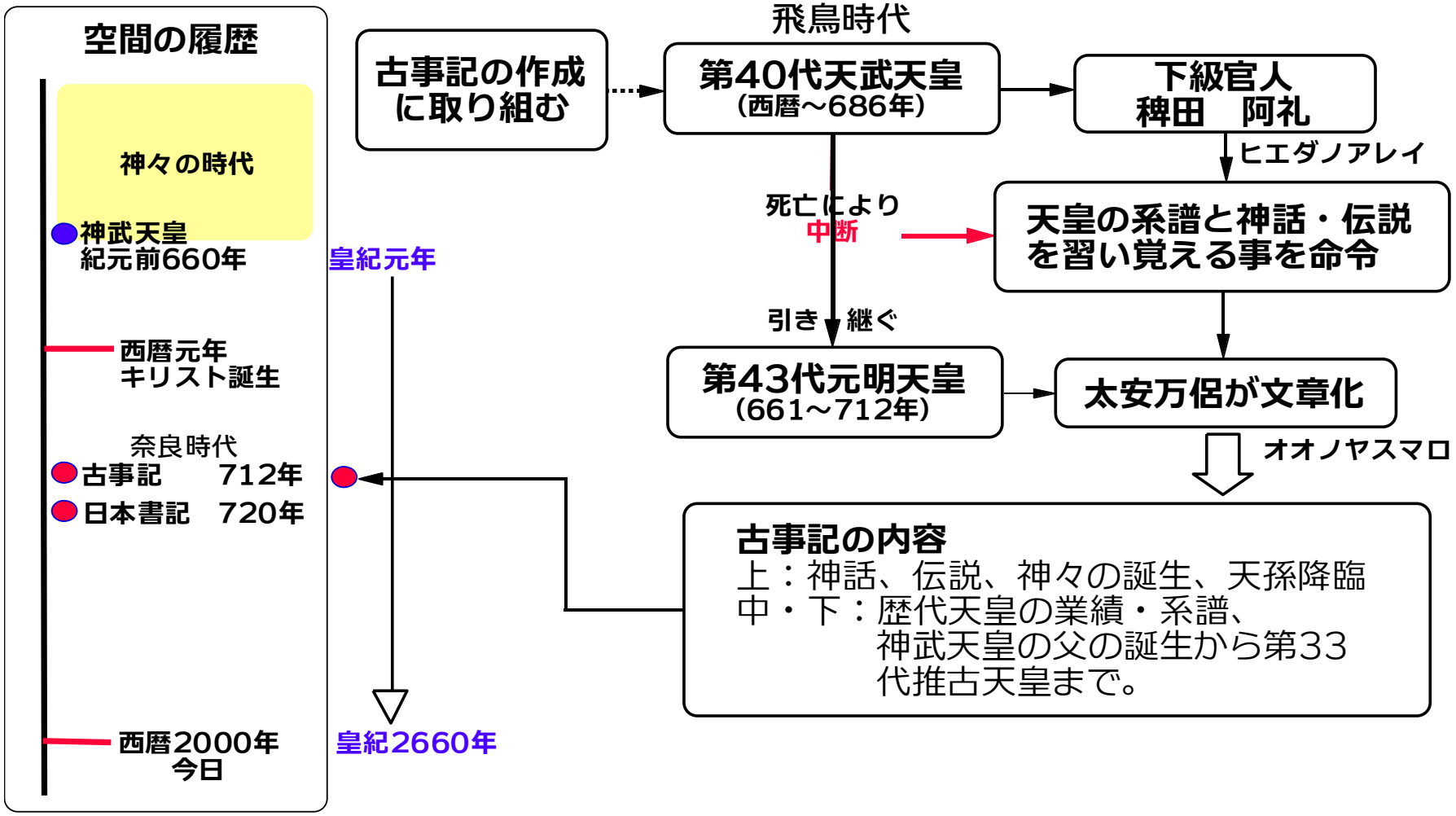
資料　各神社のホームページ、Google map
国交省ハザードマップ(地形図)　その他

目次

１．日本神話は古事記や日本書記で誕生
２．神話の始まりと神社
①おのころ島誕生は淡路島
②須佐之男命が天上から追放され出雲に降臨
③大国主神の国造りから国譲りへ・出雲大社
④天孫降臨（天上の時代、国造りの時代、天皇の時代）
⑤山幸彦、海幸彦のものがたり
⑥天皇の時代（神武天皇・橿原宮）
⑦東国３社（鹿島神宮、香取神宮、息栖神社）
⑧伊勢神宮（内宮、外宮、猿田彦神社）
⑨熱田神宮（草薙剣が保管）
⑩稲荷神社（仏教系の豊川稲荷と神社系の伏見稲荷）
⑪志賀海神社（イザナギノミコトの禊ぎで生まれた神様）
３．日本武尊（ヤマトタケルノミコト）の生涯
４．日本神話から今上天皇まで図解
５．人や社長は神社になぜよく参拝するのか？
６．神社参拝の脳科学的方法

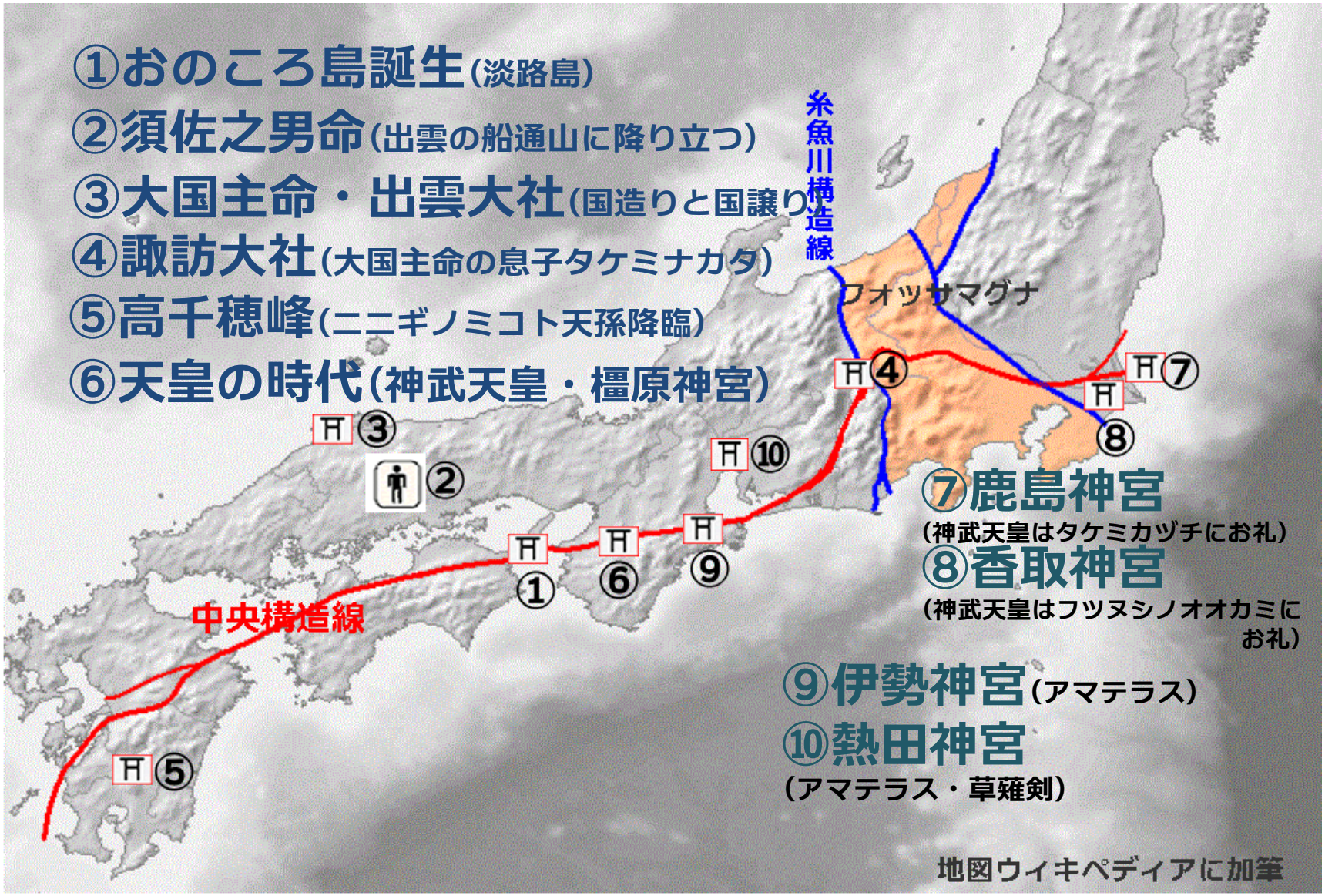
1．日本神話は古事記や日本書記で誕生

（西暦712年）　（西暦720年）



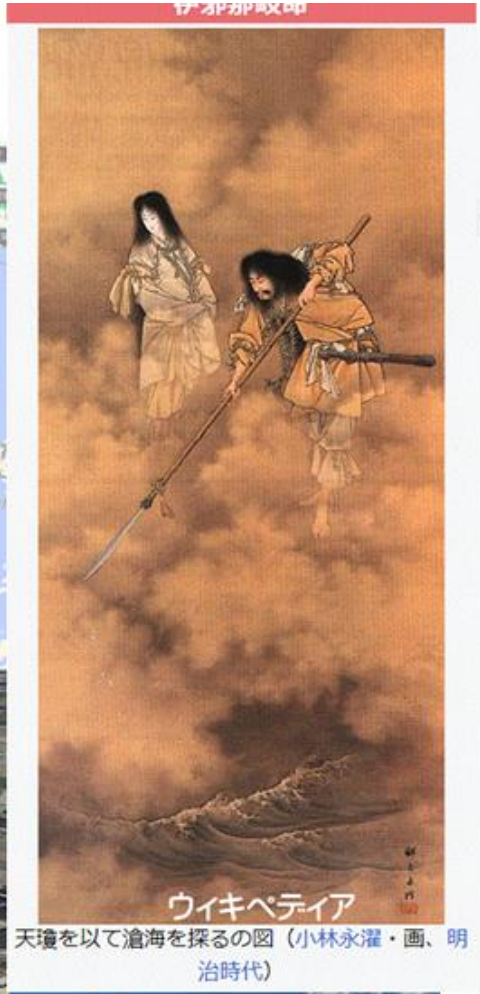
２．日本の神話の始まりと神社

日本神話の始まり



①おのころ島(淡路島)の誕生

①イザナミ命が海をかき混ぜその矛の１滴から島を誕生(自凝島)させ、後に日本列島を形づくる。
②四国
③隠岐
④九州
⑤壱岐
⑥対馬
⑦佐渡
⑧本州を誕生



天境を以て滄海を探るの図（小林永濯・画、明治時代）

淡路島

①恵比須神社（岩屋）
イザナミの最初の子・蛭子（恵比寿様）

②事代主神神社（仮屋事代主神社･漁港）
ことしろぬし神社　カリヤコトシロヌシ
大国主神の子、国譲りで先導する

③伊弉諾神宮：
伊弉諾尊（イザナギノミコト）と伊弉冉尊（イザナミノミコト）を祀った由緒ある有名な神社。

④安乎岩戸信龍神社
あいが いわど しんりゅう（小さな神社ですが、独特な雰囲気を感じさせるパワースポット）

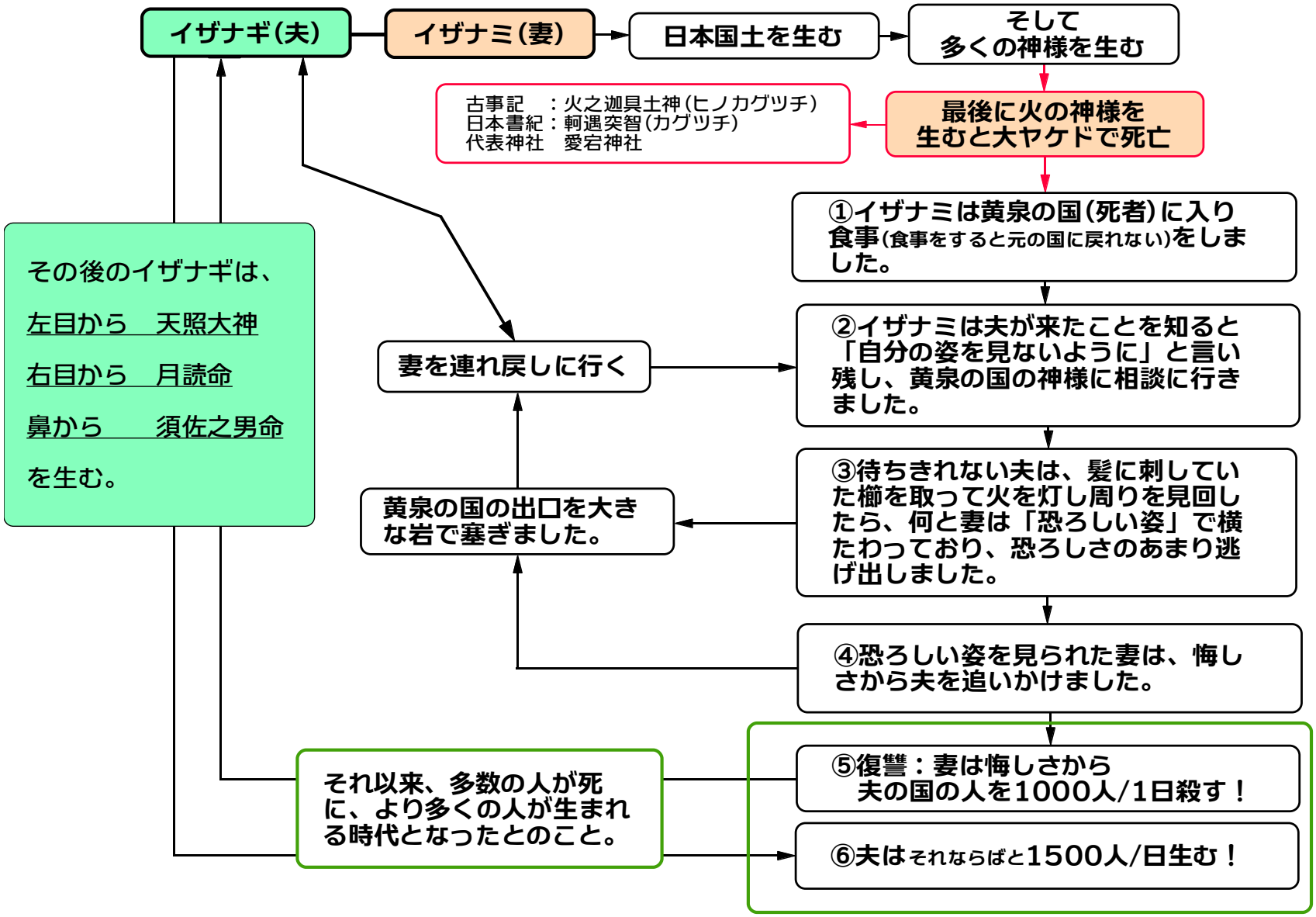
⑤洲本八幡神社（八王子神社）洲本城の
鬼門封じの神社です　大きな細石が神の依り代と云われています。

⑥おのころ島神社（伊弉諾命・伊弉冉命
の国生みの聖地と伝えられる丘にあり古くから崇敬されてきたそうです）

⑦淡路島UFO神社
日本３大水仙郷の１つ

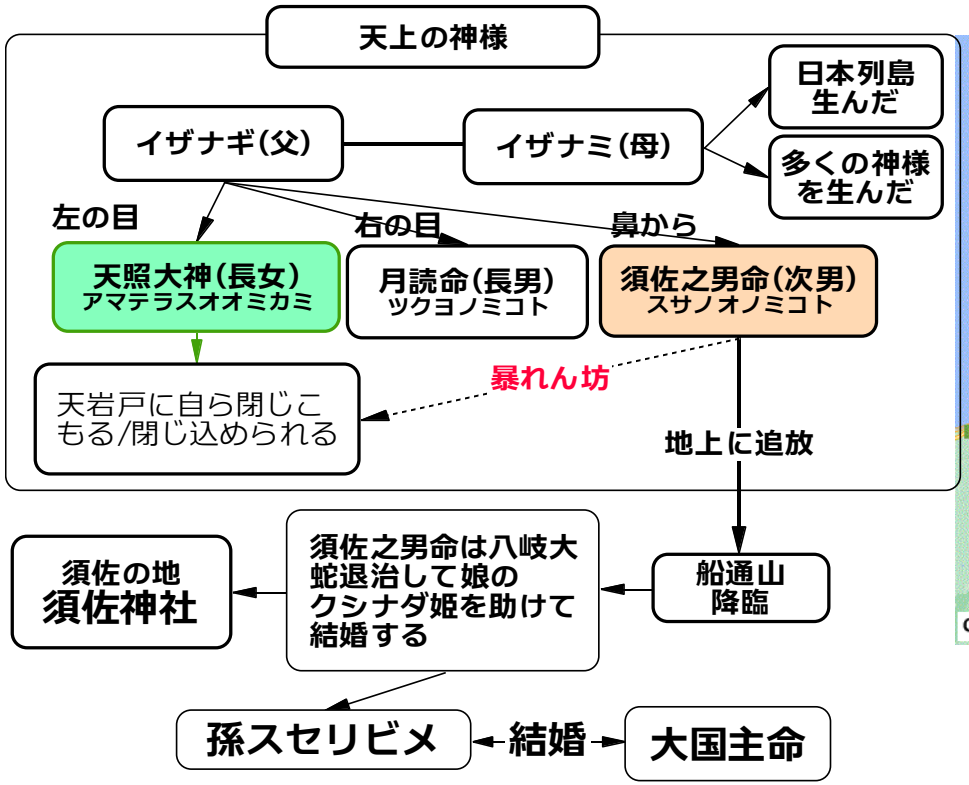
⑧自凝神社/上立神岩（オノコロジンジャ/カミタテイワカミ）
淡路島の南に浮かぶ小さな島、
沼島に鎮座。おのころさんと呼ばれる神体
山中に建つ、国生み神話ゆかりの神社

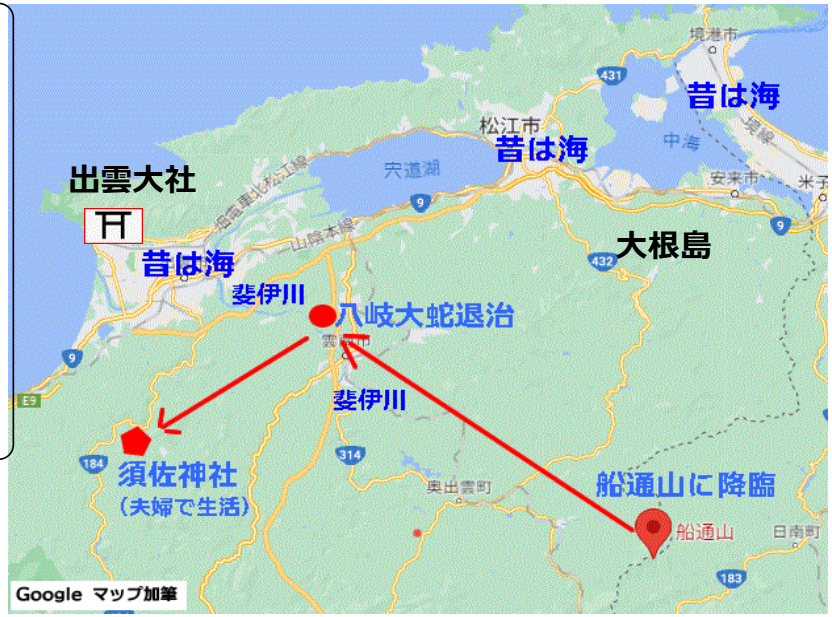
日本の生み親、夫婦のその後！



神社本庁ホームページの「神道への誘いと日本の神話」の話を図解にしました。

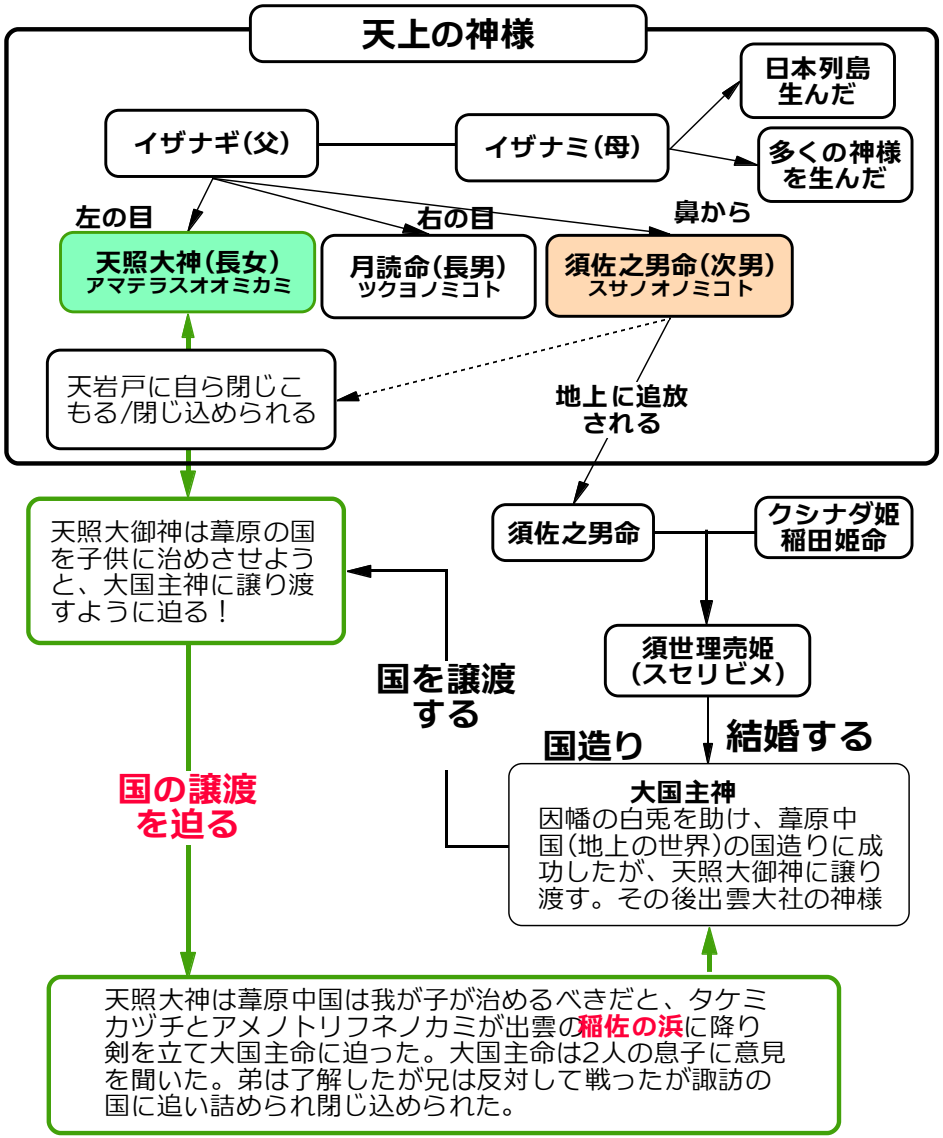
②須佐之男命が天上から追放され出雲に降臨





◎船通山に降臨する(出雲と日南の県境、高さ1,142m)
◎クシナダ姫と出合い、八岐大蛇(草薙剣)を退治して結婚する
◎クシナダ姫と須佐の地を宮処と定める
◎暴れん坊の荒々しい性格から災いを払い除けてくれる神様へ
◎夫婦の孫(スセリビメ)と大国主命が結婚する

③大国主神の国造りから国譲りへ



出雲では旧暦の10月、全国の神様が集って“神議り（かみはかり）”という会議が行われると伝えられています。この会議は「神在祭」といわれ、出雲大社の祭神、大国主大神のもとに全国の八百万の神様が集まるとされています。

参加する神々は、出雲大社の西約１キロにある「稲佐の浜」で迎えられたのち、大社境内まで向かいます。この時の神様たちの通り道が**「神迎の道かみむかえのみち」**です。

（案内文はしまね観光ナビより）

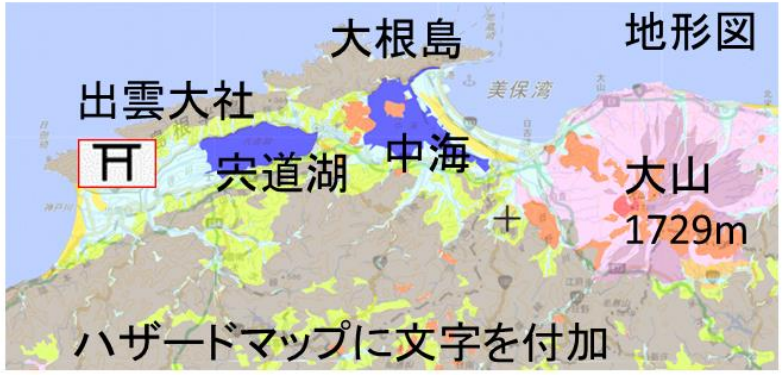
③-1.出雲大社　大国主命　島根県出雲市大社町杵築東195

４拍手：毎年５月１４日の例祭は８拍手、数字の８は古くより無限の数を意味する数字で、８拍手は神様に対し限りない拍手をもってお讃えする作法（勅祭）１回のみの作法であります。平素は半分の４拍手で神様をお讃えします。（東西南北の神様、四季等の意味等）　ホームページより

神楽殿の「大しめ縄」、日本最大級で全長13.6メートル、重量5.2トン。

神殿の創建は古事記（西暦712年）と日本書紀（西暦720）の神話伝承に記載、神代（※）とされる。オオクニノミコトが天照大神に国譲りしたときに出雲大社がつくられたと言われています。※神々がこの国を支配したという時代

大国主大神は、広く「大黒さま」として慕われ、日本全国多くの地域でおまつりされています。そして、大黒さまの子供が「恵比寿様」でもあります。　後に大国主命の子孫は神武天皇と結婚しました。



③-2.諏訪大社

タケミナカタ
（大国主命の子）

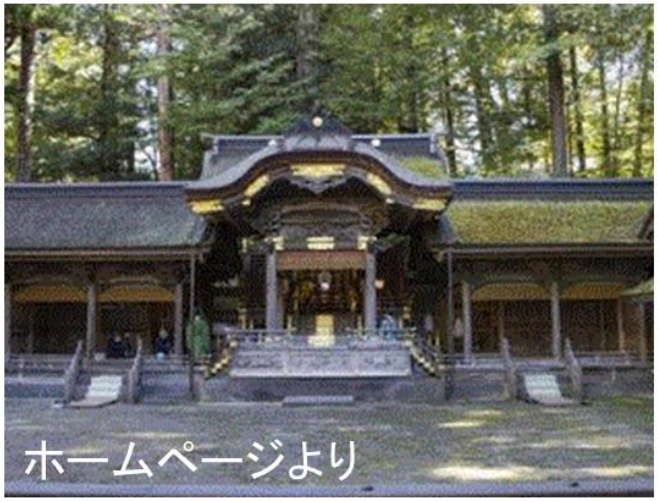
長野県諏訪市中洲宮山１

国譲りの時に天照側と戦い、敗れて諏訪の地に逃げた。
この地で一生を終える。

我国最古の神社の一つであり、信濃國の国造り、日本国土の守護神として、信濃國一之宮として信仰が厚く全国一万有余の諏訪神社の総本社。

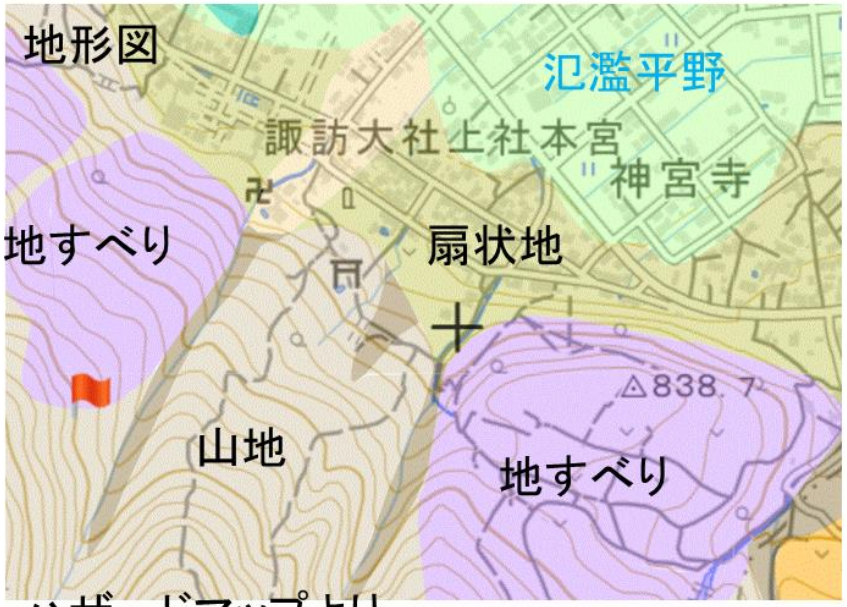
拝殿のみで本殿を持たない、諏訪造りという独持の様式。徳川家康が造営寄進したと言う四脚門など貴重な建造物が数多く残っております。

諏訪大社は社殿の四隅におんばしらと呼ぶ大木が建ち拝殿が横に並び、本殿を欠く等社殿の配置にも独特の形を備えています。御柱祭（上社・下社）は７年目毎、寅と申（さる）の年に行われます。



下社春宮
下社秋宮
本殿：無
神様：ご神木

上社本宮
上社前宮
本殿：無
神様：神体山



ハザードマップより

④天孫降臨

猿田毘古神（サルタヒコノカミ）が先導して天照大神の孫ニニギノミコトが高千穂峰に降りる。

高千穂峰は、宮崎県と鹿児島県の県境に位置する火山。標高は1,574 mで、霧島連峰の第二峰。日本二百名山の一つ。霧島神宮の祭神。ニニギノミコトが3種の神器と稲穂を持って高千穂峰に降り、日本の建国の祖（天皇の祖神）として稲作を広めた

①天上の時代

↓

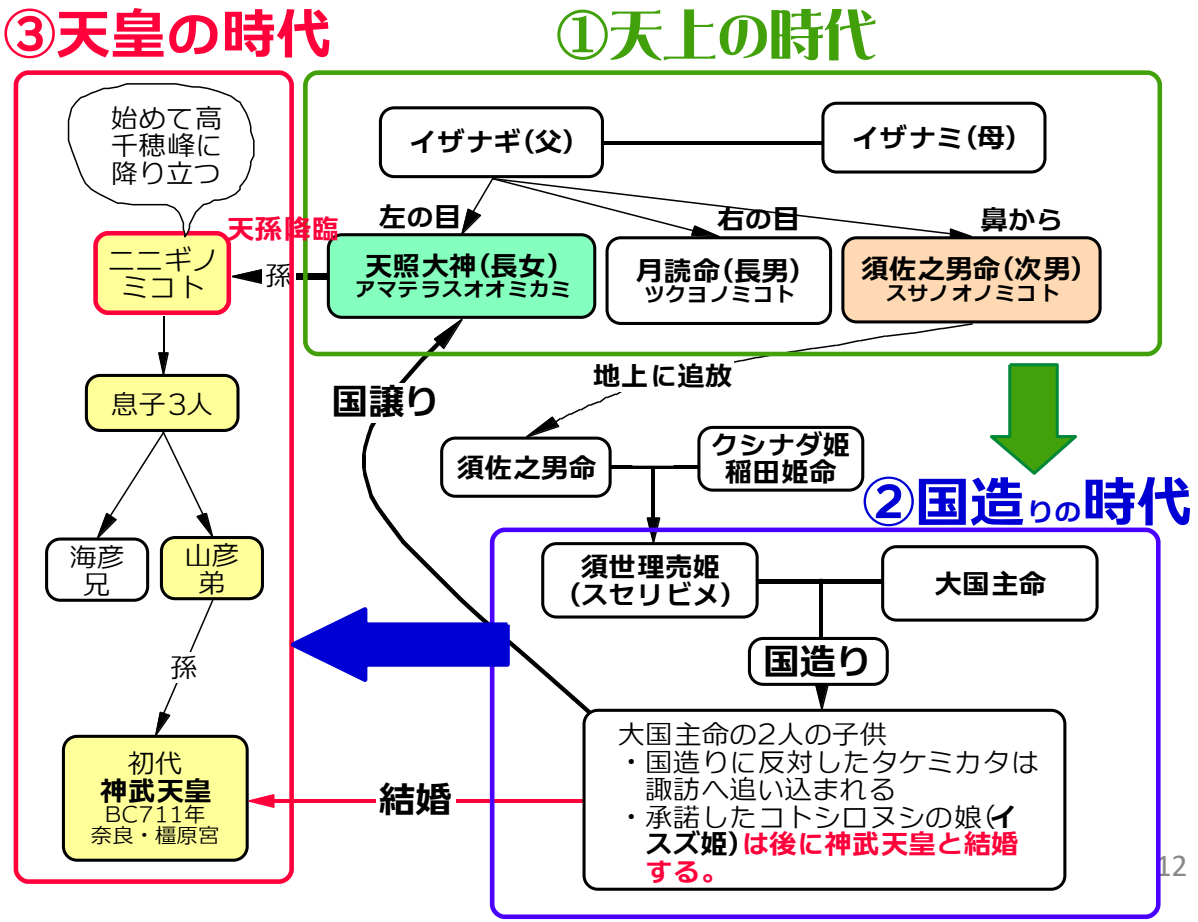
②国造りの時代

↓

③天皇の時代

天孫降臨

神武天皇から
今上天皇へ



⑤山幸彦・海幸彦のものがたり

昔々の大昔、海幸彦(兄)と山幸彦(弟)の兄弟がいました。ある日、弟の山幸彦は、兄の「金の釣り針」を借りて釣り中に針を無くしてしまいまい、兄を怒らせてしまいました。

山幸彦は浜辺でしょんぼりしていると、潮の神様に声を掛けられ、理由を話すと海の宮殿に導かれました。

海の神様(姫)に話してみると、鯛が喉に釣り針をひっかけてしまったことが分かり、山幸彦は金の釣り針を取り戻すことが出来ました。

そして、海の姫と恋に落ち３年間宮殿で過ごして、帰らなければならないことに気づきましたが、兄の海幸彦がまだ怒っていると思うと帰るが憂鬱でした。　そんな様子を見た海の神様は、「宝石の玉」を渡して兄がまだ怒っているならば「満潮」にして溺れさせ、「干潮」にして助ける方法を教えて懲らしめなさいと言いました。・・・・・・・・・・浦島太郎の話?

そして、兄のいる浜に帰り金の釣り針を返すも、兄の怒りは収まらず許してくれません。そこで、「宝石の玉」を兄を懲らしめたとのこと。

○**山幸彦**−>**天孫族**−>**ヤマト王権**−>**神武天皇**(祖父)

○海幸彦−>隼人族−>阿多・大隅民族

ヤマト王権は大和時代や古墳時代に奈良盆地に成立

ヤマト王権は、3世紀後半から6世紀ごろにかけて奈良盆地に成立、大王を中心とする豪族による連合勢力でした。大和時代や古墳時代後半に相当します。ヤマト王権は、大和（奈良県南部）を根拠地として、大王を盟主とする諸豪族連合によって形成され、九州北部から東北地方南部にまで支配領域を広げたと考えられています。

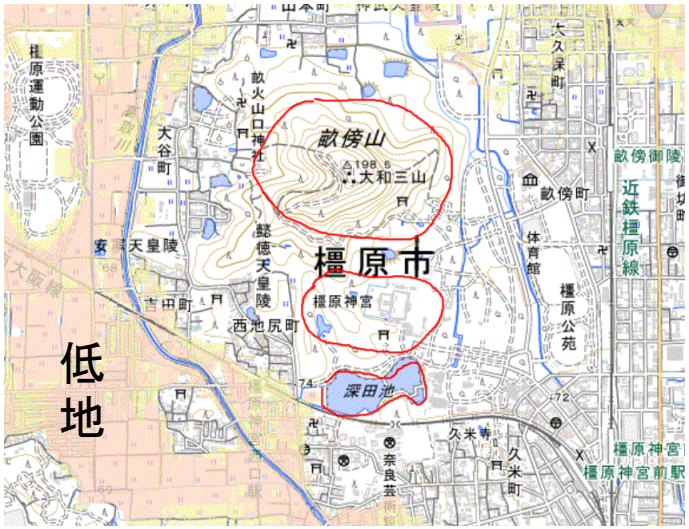
神武天皇が進んだと伝えられるルート

文部科学省HPより

神武天皇の東征のルートは次のとおりです。
日向の高千穂宮を出発し、豊国・筑紫・阿岐国・吉備・浪速・橿原の地へ、途中に各地の豪族達に抵抗されましたが、天照大神等に助けられ橿原の地で、初代天皇として即位しました
神武天皇の即位（45歳頃）　紀元660年

ヤマト王権については色々な説がある様です。

⑥天皇の時代(神武天皇・橿原宮)



ハザードマップより

紀元元年、2,680余年前の神武天皇の橿原宮址〈かしはらのみやあと〉

神武東征では、熊野の悪神たちの毒気によって神武天皇とその兵士たちは力を失い全滅の危機、アマテラス大神はタケミカヅチ命にもう一度降臨して神武天皇を助けよと命令します。
タケミカヅチ命は「自分の剣をさずければ事は成るだろう」と言い剣を地上に降ろします。
地上で受け取ったタカクラジ命(高倉下命)がその剣で熊野の悪神たちをことごとく切り伏せました。

ホームページより

明治22年に橿原神宮が創建

畝傍山（うねびやま）

香具山や耳成山とともに「大和三山」の一つとされる山で、古来より人々に親しまれてきた国の名勝。畝傍山は大和三山で最も高い標高199.2mの瀬戸内火山帯に属する死火山で、北参道の途中に畝傍山登山口があり、約30分で山頂まで登ることができます。

深田池：南神門広場の南方には、約15,000坪の静かな水面が広がっています。深田池は歴史のある溜池で、飛鳥時代に築造されたと伝えられています。

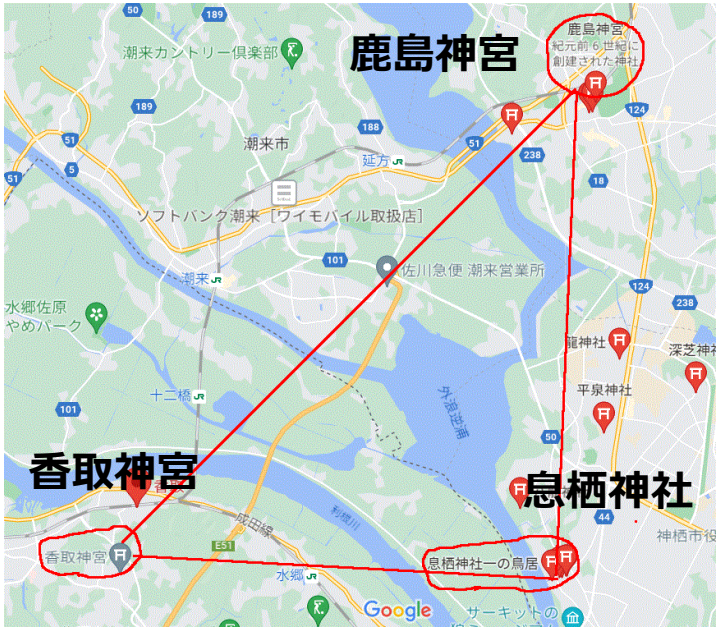
⑦東国三社　⑦-1.鹿島神宮

茨城県
鹿嶋市宮中2306-1

（鹿島神宮・香取神宮・息栖神社）

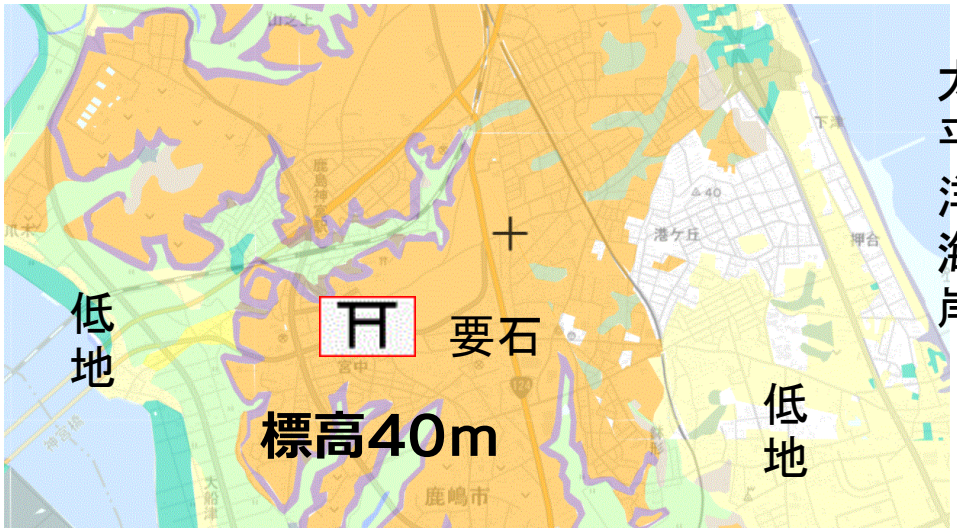
紀元前660年　紀元前660年　紀元１年

創建　神武天皇元年（紀元前660年）
祭神　タケミカヅチノオオカミ「武甕槌大神」



参道を歩いていますと右側（北向き）に本殿があります。

鹿島神宮は中央構造線の終点に位置し、
地震・津波のリスクが高い。標高40mの台地に立地。



ハザードマップより

神武天皇は東征の半ばにおいて思わぬ窮地に陥りましたが、武甕槌大神の「韴霊剣」の神威により救われました。この神恩に感謝された神武天皇は即位の年、皇紀元年に大神をこの地に勅祭されたと伝えられています。

ホームページより

⑦-2.香取神宮

祭神　経津主神
（フツヌシノオオカミ）

創建(伝)神武天皇18年
紀元前　660年

千葉県香取市香取1697-1

（フツヌシノオオカミ）

ハザードマップより

天照大神は大国主命に国譲りを迫りますが、はかどらないため、八百万神に相談すると、神々が口を揃えて、経津主神こそふさわしいと言い、武甕槌大神とともに、出雲に派遣されることとなりました。

出雲国の稲佐の浜に着いた経津主、武甕槌が十握剣（とつかのつるぎ）を抜き逆さに突き立て武威を示すと、大国主神は天照大神の命令に従い葦原中国を譲りました。

神幸祭は毎年4月15日に行われておりますが、12年に一度の午年には15・16日の両日に掛けて盛大裡に執り行われます。
元は式年遷宮大祭の名で20年に一度行われていたとされていますが、戦国時代以降、式年遷宮が行われなくなり、替わって12年に一度ずつ神幸祭を行うことになり今日に至ったとされています。

（参考資料　ホームページなど）

⑦-3.息栖神社

祭神：天鳥舟神（アメノトリフネノカミ）

西暦１年創建

茨城県神栖市息栖2882

神殿は西向きです

息栖神社は鹿島、香取の御祭神を道案内した神様で武神の乗り物であった「天鳥舟神（あめのとりふねのかみ）」が祀られています。

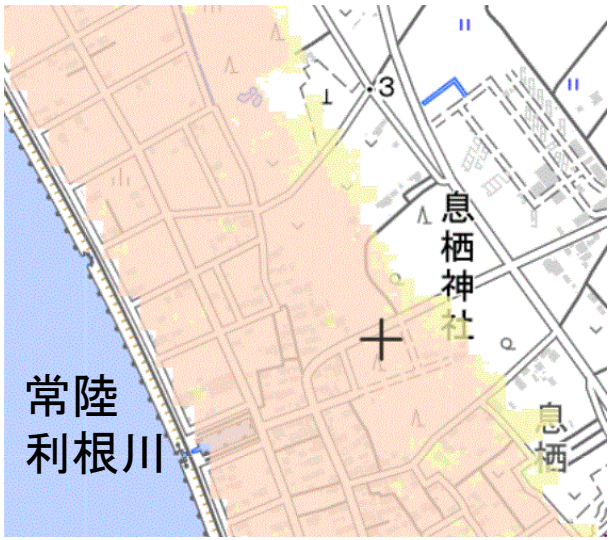
東国三社のうち他の二社に比べてより静かで趣がある神社が息栖神社です。

鳥居の両脇には、小さな鳥居の建てられた二つの四角い井戸「忍潮井（おしおい）」があり、白御影石で銚子の形をしているものを男瓶（おがめ）・やや小ぶりで土器の形をしているものを女瓶（めがめ）と呼んでいます。

体と精神を鍛える力石

忍潮井は194年に造られ、両瓶とも1000年以上もの間、清水を湧き出し続けてきたとされています。

日本三霊水「忍潮井」は、伊勢の明星井、伏見の直井とともに日本三霊水に数えられています。



（神社等のホームページより）

⑧伊勢神宮と関連神社

①伊勢神宮　内宮（天照大神）

西暦1年（古墳時代）倭姫命（垂仁天皇）により創建　、太陽の神様。
20年に1度、社殿を造り替える神宮最大のお祭りは式年遷宮。

ご神体は三種の神器の一つである八咫鏡
皇室の御祖先であり、私たち日本人の総氏神天照大御神をおまつりする全国神社の中心。（伊勢市宇治館町1）

②伊勢神宮　外宮（豊受大神宮）

西暦500年頃、天照大御神の食事を司る神として丹波国から現在の地に迎えられました。衣食住を始め産業の守り神。

外宮では朝と夕の二度、天照大御神を始め相殿神及び別宮の神々に食事を供える日別朝夕大御饌祭が続けられています。
せんぐう館の前には、まがたま池もありゆっくりと休めます。（伊勢市豊川町279）

③猿田彦神社

天孫降臨、ニニギノミコトを案内した後、五十鈴川の地に戻り、この地を始め全国を開拓しました。
（宇治市宇治浦町2-1-10）

④滝原宮

伊勢神宮の内宮別宮で天照大御神をお祀りしています。
（三重県大紀町滝原872）

⑤朝熊岳・金剛證寺

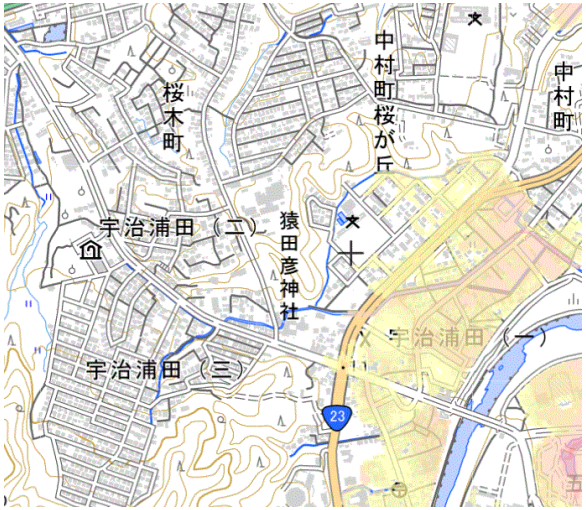
昔より伊勢神宮の鬼門を守る寺として、神宮の奥之院ともいわれています。
（伊勢市朝熊町548）

伊勢神宮付近の洪水リスク等

①内宮付近

②外宮付近

③猿田彦神社付近



神社周辺は浸水・洪水リスクはありますが、３神社とも洪水等のリスクは無く避難所としても安全です。

国交省ハザードマップより

内宮・五十鈴川　御手洗場

外宮・勾玉池（せんぐう館前）

猿田彦神社　子宝池

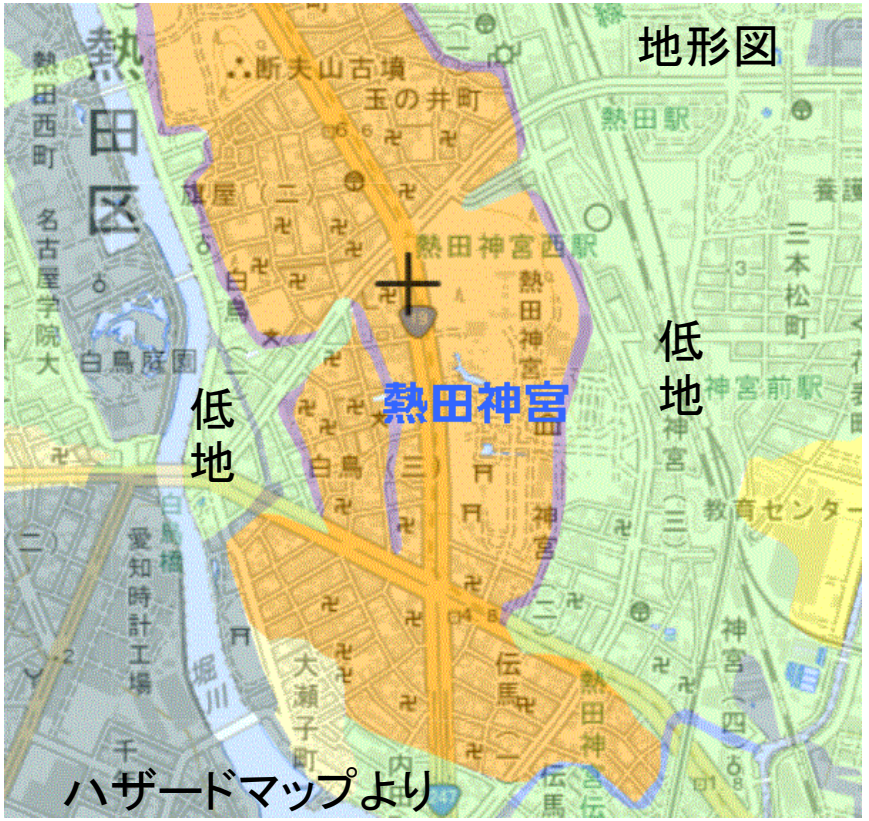
⑨熱田神宮（名古屋市）熱田大神

草薙の剣が鎮座

三種の神器の1つ草薙神剣を神体とする天照大神を祀る。（創建西暦646年）

日本武尊（第12代景行天皇の皇子おうじ）は、東国征討を行ったとされる日本古代史上の伝説的英雄でありますが、力が強すぎて誤って兄を死なせてしまい、父である天皇に疎（うと）まれます。

日本武尊は草薙剣を手にいくつもの困難を乗り越え、最後に尾張国で伊吹山の神を討つことにしますが、これまで危機を救ってきた草薙剣を置いていきました。素手でも大丈夫とおごる気持ちがあったようで、白い猪の姿をした神の圧倒的な力に負け、瀕死の状態になり、とうとう三重県亀山市で力尽き亡くなりました。
草薙剣はそのまま熱田神宮に祀られることになりました。ホームページより



⑩稲荷神社（お稲荷さん）

稲荷神社

・大陸由来の「稲が生きる＝稲荷」稲の豊作を願って祀られた神様
・江戸時代、田沼意次が自分の屋敷に神社を祀ったことで運が開けたと言う評判が伝わり全国に広がったと言われています。

仏教系
豊川稲荷、最上稲荷
とよかわだきにしんてん
（インドの神様が仏教に帰依）

豊川稲荷HPより

神系
総本社・伏見稲荷大社
西暦411年

伏見稲荷大社HPより

五穀豊穣を司る
宇迦之御魂大神
うかのみたまのおおかみ

五穀豊穣・豊作祈願
商売繁盛・縁結び等

企業・デパート等の屋上に商売繁盛の神様として祀られています。

狐（きつね）はお稲荷様の祭神ではなく、稲荷神のお遣いをしています。
田植えが始まる春から秋にかけて里に降りて、収穫が終わる頃に山へ戻っていくため、稲を見守る守り神のように考えられていたという説があります。

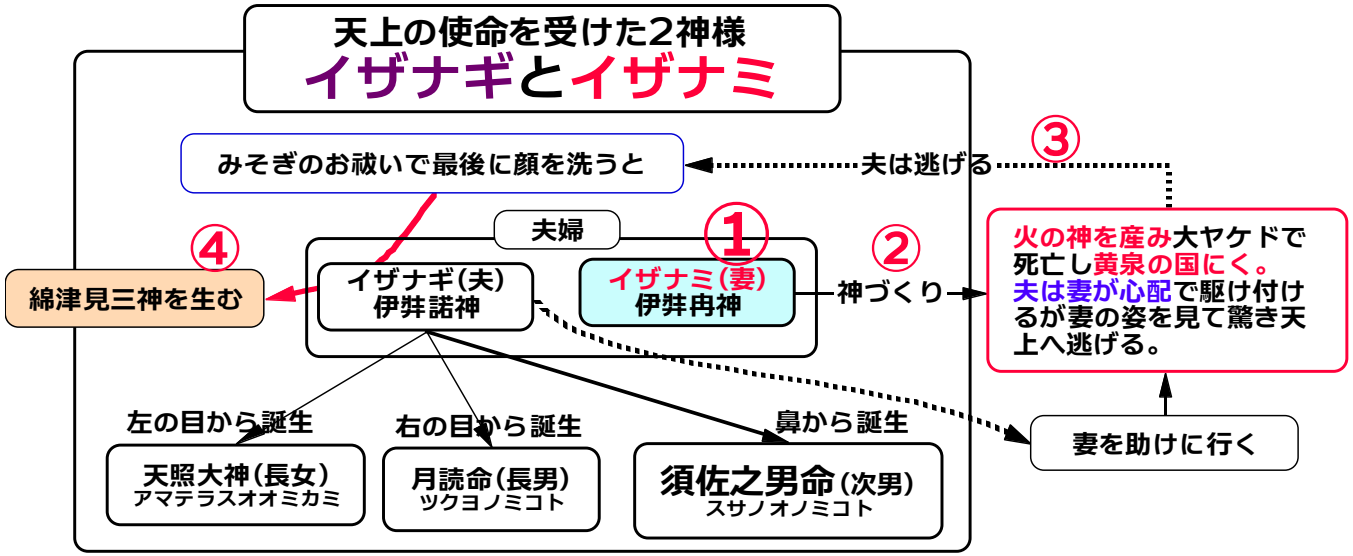
伏見稲荷神社・信仰の原点が、後方の稲荷山であります。当社の御祭神である稲荷大神様がこのお山に御鎮座されたのは、奈良時代の和銅4年（711）2月初午の日のこと。その日から数えて、平成23年（2011）に御鎮座1300年を迎えました。HPより

豊川稲荷は正式名を「妙厳寺」と称し、山号を圓福山とする曹洞宗の寺院です。
一般的に「稲荷」と呼ばれる場合は、「狐を祀った神社」を想像される方が多数であると思われますが、当寺でお祀りしておりますのは鎮守・豐川だい枳尼眞天（とよかわだきにしんてん）です。豐川だい枳尼眞天が稲穂を荷い、白い狐に跨っておられることから、いつしか「豊川稲荷」が通称として広まり、現在に至っております。HPより

⑪志賀海神社

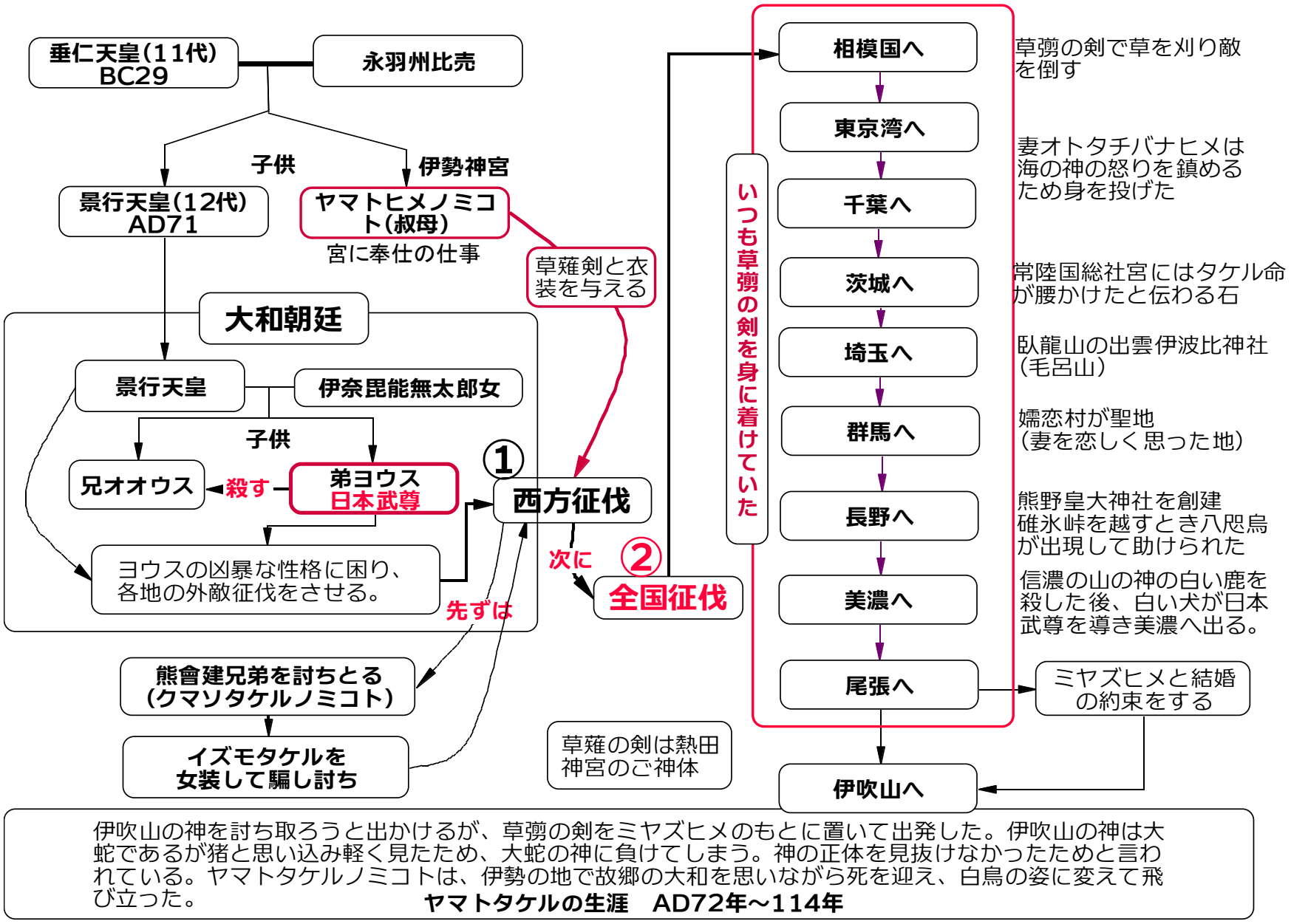
福岡市志賀島に鎮座　　創建：2～3世紀頃
ご祭神：綿津見三神(ワタツミ、日本神話の海の神)

志賀海神社は、伊邪那岐命の禊祓(みそぎはらえ)によって出現した綿津見三神を奉斎している神社、神代より「海神の総本社」「龍の都」と称えられ、玄界灘に臨む海上交通の要地博多湾の総鎮守として信仰されてきました。(ホームページより)



写真は神社ホームページより

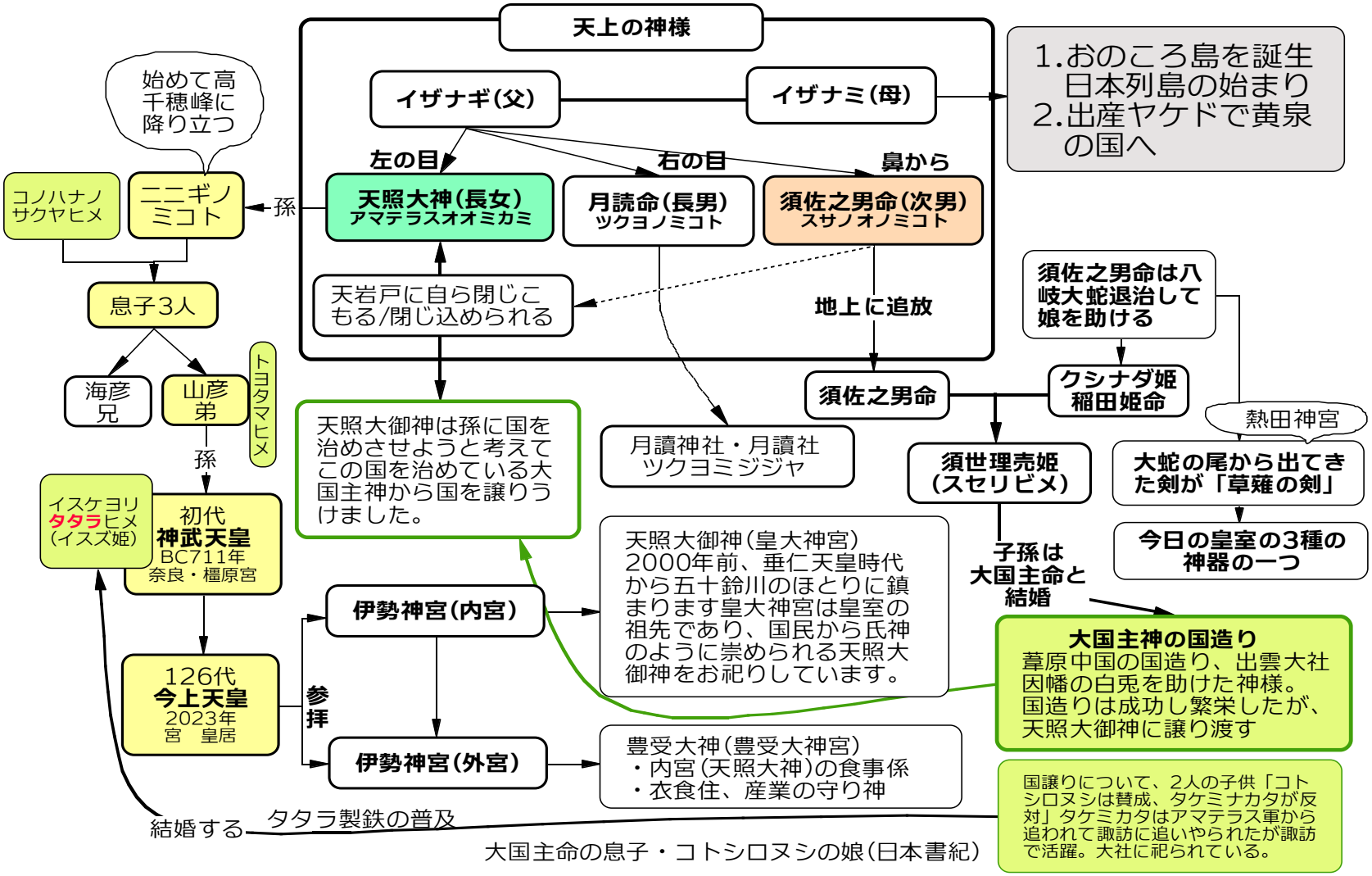
3．日本武尊(ヤマトタケルノミコト)の生涯



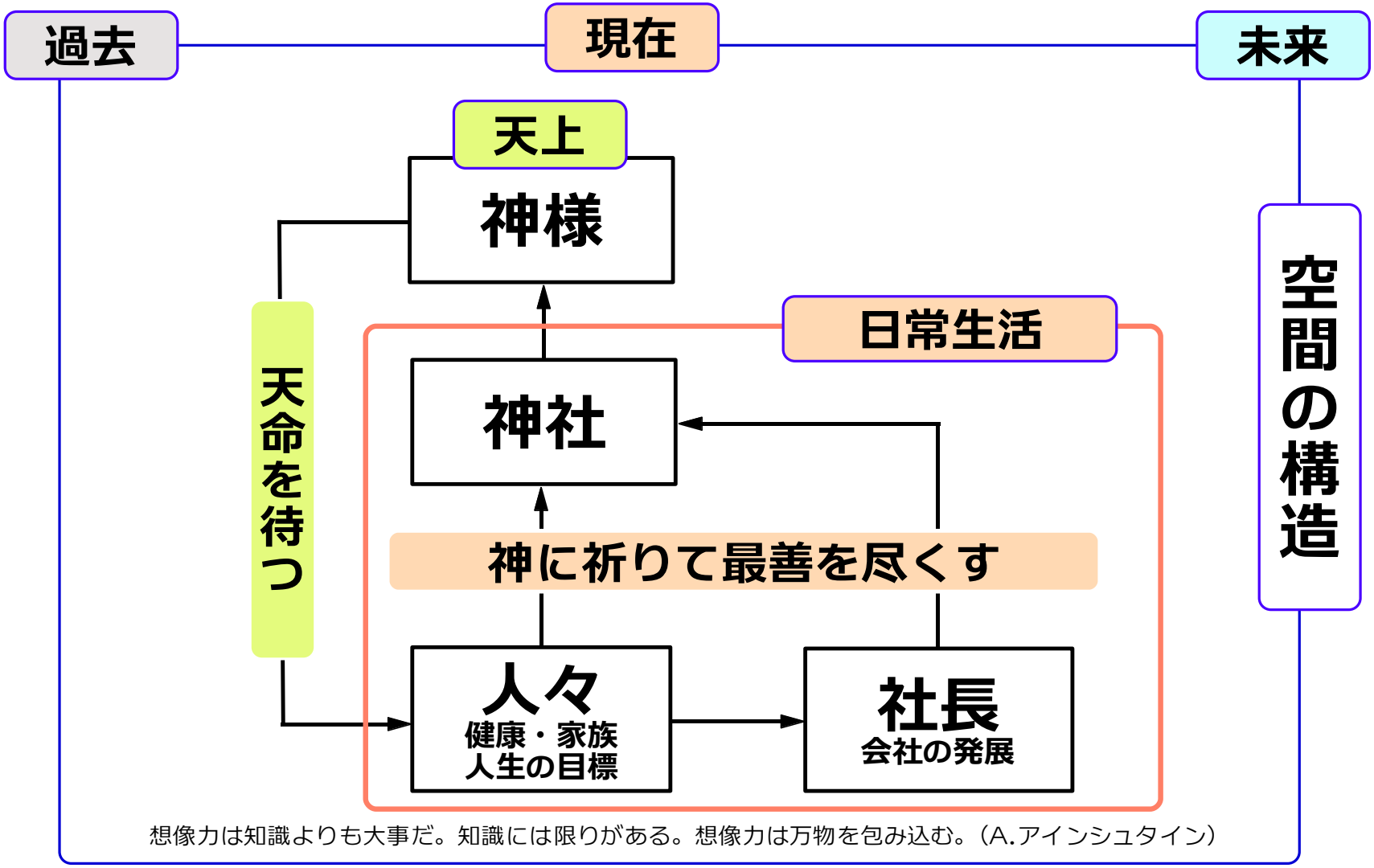
伊吹山の神を討ち取ろうと出かけるが、草薙の剣をミヤズヒメのもとに置いて出発した。伊吹山の神は大蛇であるが猪と思い込み軽く見たため、大蛇の神に負けてしまう。神の正体を見抜けなかったためと言われている。ヤマトタケルノミコトは、伊勢の地で故郷の大和を思いながら死を迎え、白鳥の姿に変えて飛び立った。

ヤマトタケルの生涯　AD72年～114年

4．日本神話から今上天皇まで



5．人や社長は神社になぜよく参拝するか？

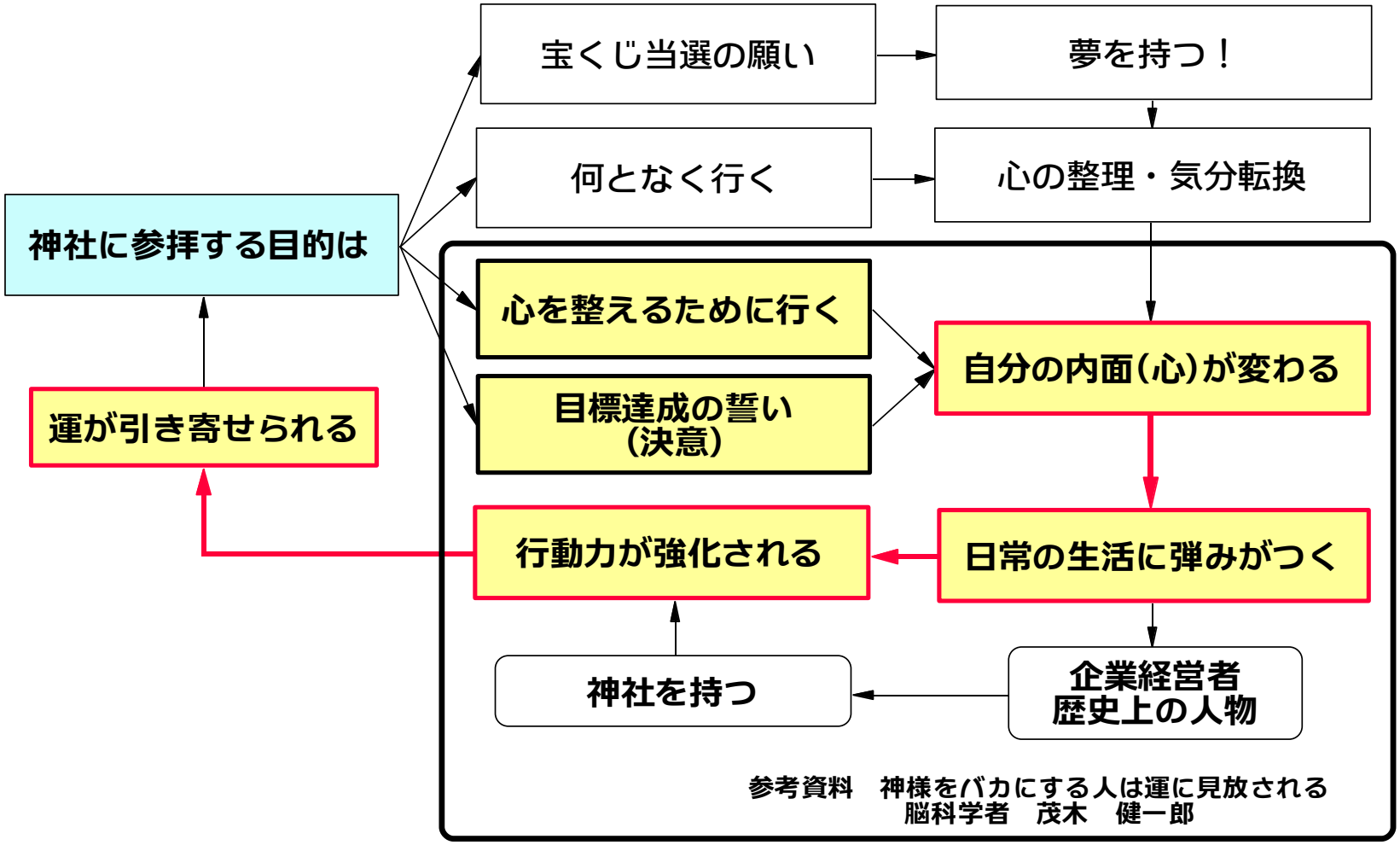


想像力は知識よりも大事だ。知識には限りがある。想像力は万物を包み込む。（A.アインシュタイン）

DIAMOND　online、運を磨く（田坂　広志）、茂木健一郎、他を参考

６．神社参拝の脳科学的方法

神様の前で自分や家族や商売等の目標達成を誓う

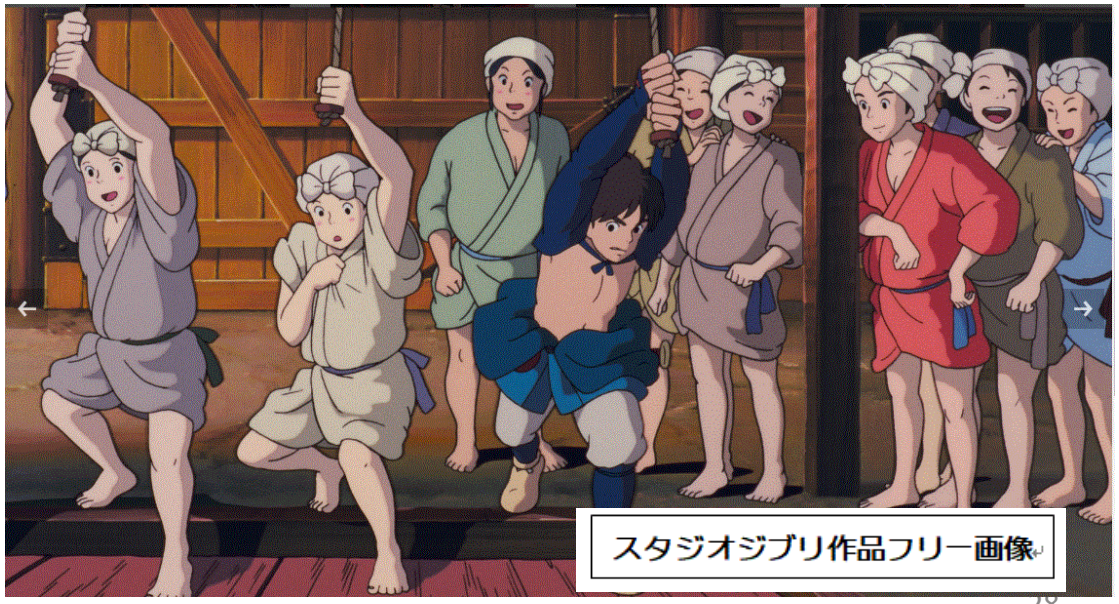


アニメと神様

たたら場：現存するのは島根県雲南市吉田町にある「菅谷すがやたたら」のみで、『もののけ姫』に登場するたたら場のモデル。

　宮崎駿監督のアニメ『もののけ姫』には「たたら場」が、物語のカギを握る重要な場所として登場します。
たたら場とは砂鉄から鉄を取りだす作業を行う場所で、いわば昔の製鉄所です。
　主人公アシタカは、**たたり神**の呪いを解こうと旅をする中、たたら場でエボシ御前と出会い、呪いの正体を知り、やがて人間とももののけの戦いに巻き込まれていきます。
『もののけ姫』には、たたら製鉄やたたら製鉄に従事する人たちの暮らしに触れたセリフも出てきます。

初代神武天皇は、イスケヨリヒメ（大国主命の息子コトシロヌシの娘）と結婚しますが、出雲のタタラ製鉄の普及とも言われています。



© 1997 Studio Ghibli・ND